

# 「コミニクアジア 2010」「ブロードキャストアジア 2010」 フォトレポート

神谷 直亮

6月にシンガポールで開催された「コミニクアジア 2010 (CA2010)」「ブロードキャストアジア 2010 (BA2010)」は、5万5千人を超す来場者で賑わった。先月号の「サテライト・スクエア」で、衛星通信・衛星放送に触れたが、今回はそれ以外の分野の展示内容をフォトレポートでお届けする。

## ソニー



ソニーは、同社のカメラを2台組み込んだリグ、マルチフォーマット・スイッチャ、ステレオ・イメージ・プロセッサ、60インチLCDディスプレイなどをブースに並べて、3Dのワークフローを分かりやすく説明する手法で来場者の関心と呼んだ。一方、居間風にアレンジした別のコーナーでは、ブルーレイ・ディスクに録画されたリオのカーニバル、沖縄の水族館、USC対オハイオ州立大のアメリカンフットボールなどの3D映像を来場者に見せていた。ディスプレイの表示は、240Hzアクティブ方式でメガネもソニー製であった。

## NTT ドコモ



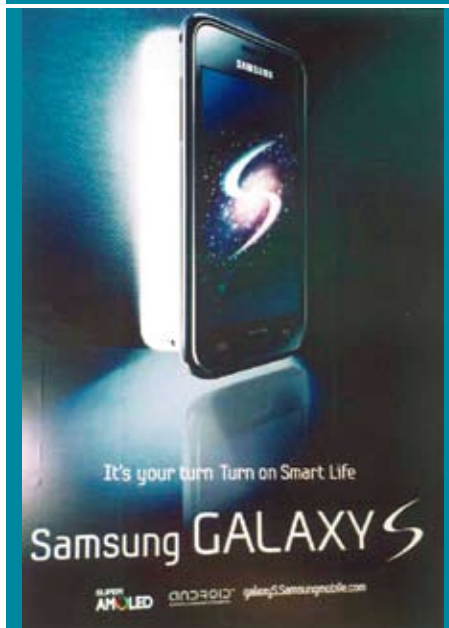
NTTドコモは、下り100Mbpsで遅延が14～15ミリ/秒という「低遅延LTE」を大々的にPRした。準備万端整えつつあり、商用サービスのためのデータ・カードの発売については、「今年12月を予定している」と述べていた。究極の電話型サービスに関しては、「2011年末には開始したい」と意気込みを語った。

## パナソニック



パナソニックは、ブースの中央に設置したステージで演じられるムエタイ・ボクシング、ローラースケート、バンド演奏などを一体型二眼式フルHD 3Dカメラレコーダ(AG-3DA1)で撮影。このライブ映像をロス・ビデオのスイッチャ、シーチェンジのエンコーダなどを經由して、パナソニックの3-ChipDLP プロジェクタ(PT-DZ12000E)でシルバースクリーン(100インチ)に投射して見せた。一方、奥まったコーナーでは、ブルーレイ・ディスク・プレーヤ(DMP-BDT300)と今年8月に発売予定のフルHD 3DプラズマTV(TC-P50VT25)で、これまで撮りためた3Dコンテンツのデモを実施した。来場者は、カヌー、バンジー・ジャンプ、自動車レースなど非常にバラエティに富んだコンテンツを、パナソニックのTY-EW3D10型シャッター・コントロール・メガネをかけて堪能していた。

## サムスン電子



サムスン電子は、「ギャラクシーS」と「ギャラクシー・ビーム」を目玉にしていた。「ギャラクシーS」に関しては、「仕事中でも、家庭でも、移動中でも役に立つ」とのキャッチフレーズを掲げHDビデオ録画機能、電子ブック機能、アラーム機能などをデモした。つまり「S」は、スマート・ライフを意味しているとのことであった。この「ギャラクシーS」は、シングテルがシンガポールで販売権を獲得しており、地元のシンガポール人が熱心に話を聞いたり、試したりしていた。「ビーム」は、その名前の通りプロジェクタが付いているのが特徴である。

## AT コミュニケーションズ



車載・可搬局の分野では、日本のATコミュニケーションズとインドのエッセル・シャムが3Dテレビ素材収集用の車載局を紹介して注目を浴びた。ATコミュニケーションズは、日本からシンガポールまで同社の3D HD車載局を海上輸送し、ホール6で来場者に披露した。日産エルグランドにスウェーデンのCCT-120DA型アンテナ(直径1.2m)を搭載したこの車載局は、昨年の「InterBEE2009」以来日本では知られているが、「CA2010」では初出展ということで、大勢の来場者の注目を集めた。ブースで出会った浅野社長によれば、「カナダのIDCのスーパーフレックス・プロシネマ3Dコーデックと、アイドリング中でも充電できるエコ発電システムが特色」とのことであった。

## ハリス



ハリスは、「BA2010」のメインゲート近くに大きなブースを構えて、ハイエンドの「インフォキャスター SE」と普及版の「インフォキャスター LE」の2種のデジタルサイネージを売り込んでいた。具体的な納入実績として、シンガポールに今年4月にオープンしたばかりのマリーナベイ・サンズ（ホテル、コンベンション・センター、カジノの巨大なコンプレックス）をあげ、マカオのベネチアンとともに、「アジアの2大顧客を獲得した」とPRに余念がなかった。

## スカイプ



総登録者が5億6000万に達したというスカイプは、青空と雲間の虹で彩られた明るいブースで、「Skype on TV」のデモを実施して注目的になった。このデモは、ミニカメラとスカイプ機能を搭載したパナソニック製のHDテレビを、ブースの正面と奥まったコーナーに1台ずつ設置して行われた。来場者は、LANケーブルで接続されたこれら2台のテレビモニター間で、画像と音声のメッセージを交換し合っていた。スカイプがパナソニック、サムスン電子、LG電子を説得し、スカイプ機能搭載のHDテレビをどこまで売り込めるか注目に値する。

## プレイボックス・テクノロジー



常連のハリスに対し、デジタルサイネージの初出展者として大々的に販売活動を行ったのが、ブルガリアのプレイボックス・テクノロジーである。本業はプレイアウト関連機器の製作と販売と語っていたが、インドとマレーシアに支店をオープンして、デジタルサイネージにも力を入れているという。ハリスに比べてどちらかといえば、経済性を重視したロー・エンドのソリューションを狙っているように思われた。

## シンガポール・テレコム

シンガポール・テレコムは、今回衛星による3Dテレビの生中継を前面に押し出していたが、同社がMIO TVのブランドで展開しているIPTVサービスのPRにも余念がなかった。目玉プログラムは何かと聞いてみたら、「人気があるのは、サッカーを中心としたスポーツ番組。パークレイズ・プレミア・リーグ2010の独占中継を売り込んでいる」と答えていた。



## ブロードバンド・ネットワーク・システムズ (BNS)



IPTVのインテグレータとして知られる香港のBNSは、昨年に引き続いて、商品カタログとIPTVを連動させる「BNSタッチ」と名付けた双方向ショッピングを実演して見せた。「The WIZ」と呼ばれる超小型CMOSカメラと光センサーを搭載したタッチ・ペンで、カタログ上の商品ドットコードに触れると、無線でIPTVのSTBに接続し、即テレビ・スクリーンに詳しい内容が表示される。言わば、テレビを活用し

た付加価値情報付きのカタログ・ショッピングである。ペンとSTBの接続には、USBドングルとZigbeeが採用されていた。具体的な商用化の例を問い合わせたところ、「台湾でIPTVを展開している中華電信が、すでにサービスを開始している」と答えていた。また、シンガポールのフロン・ホテルも、滞在客用に「BNSタッチ」システムを導入しているという。さらに、「インドネシアでHD IPTVサービスを始めたばかりのPT. Graha Multimedia Nusantaraが、6月末から導入することになった」と付け加えていた。

## オーチャード・ホテル



余談になるが、今回シンガポールに滞在して、多様なデジタルサイネージが隅々まで普及していることを実感した。最も意外だったのは、オーチャード・ホテルでは、男性用トイレにデジタルサイネージを導入していた。

Naoakira Kamiya  
衛星システム総研 代表  
メディアジャーナリスト